

## 県内企業施設研修を通して

◇期 日:令和6年10月18日(金)

◇場 所:榊田酒造店・イタイタイ病資料館・スギノマシン(15H)・富山村田製作所(16H)

◇参加者:1学年探究科学科生徒79名

1学年探究科学科2ホーム79名は探究的・科学的な見方や考え方を育てることを目的とした県内企業研修に参加した。榊田酒造店、イタイタイ病資料館に加えて、15Hはスギノマシン、16Hは富山村田製作所を訪れ探究活動を行った。

初めは岩瀬方面へ向かい榊田酒造を見学し、その歴史をはじめ、岩瀬の発展について詳しく教わりながら岩瀬の街を歩いた。解説をしてくださった榊田隆一郎さんは「日本人が思う美とヨーロッパの方々の価値観は違う」ということで、ご自身は日本酒を通して日本の良さをアピールしていこうというビジョンを持って酒造を営まれている方だ。また、さまざまな人とのかかわりや多彩な能力を通して岩瀬の町おこしにも尽力されている。見学をする中で、日本は〈観光客数〉や〈並んでいる人の数〉といった数字にとらわれすぎているので〈観光地の特徴〉や〈お店の質〉といった中身や質に重



点をおいて判断するべきだとおっしゃっていたことが印象的だった。榊田さんの熱意に押されながらも、ユーモアあふれるお話に加え、質問を交えながら学び多い時間を過ごした。岩瀬の町の中心となっている榊田さんのお話を聞くことで、海外への認識やメディアなど様々な面への新しい意識が与えられた。

イタイタイ病資料館では、四大公害病の一つであるイタイタイ病についてスタッフの解説や資料映像で、その原因から被害状況、現在に至るまでの取り組みについて学び、理解を深めた。10月7日に本校至誠ホールで行われた事前学習のおかげもあり、イタイタイ病について深く考えることができたと思う。豊かな水とおいしいコメに当たり前に恵まれている私たちにとって、この公害に対して考えるべきことがたくさんあった。この公害には、公害自身もたらす被害に加え、被害者に対する誹謗中傷によっても人々が苦しめられるという事実があった。このようなことは、二度と繰り返してはいけない、と深く感じさせられた。原因企業・住民が努力を続けたからこそその結果を得られ、それは世界に誇れるものではないかと感じた。生徒はさまざまな視点から質問を積極的に行い、関心をもって学ぼうとする姿勢が多くみられた。



15H生徒が訪れたスギノマシンでは、スギノマシンについての講義を聞いたのち、実際に工場を見学させてもらった。講義では、「スギノマシンはBtoBの会社であり、私たちに身近ではないが、社会を支えるうえで大切な仕事だ」とおっしゃっておられた。工場見学では、実際にウォーターカッターで段ボールを切らせてもらい、また、金属の切断を見せていただいた。ウォーターカッターでは切断面が濡れず、また、細部まで切ることができるなどの利点を持っており、お菓子のカットにも使われているそうだ。





16Hは富山村田製作所の見学を行った。富山村田製作所は総合電子部品メーカーとして、お客さんのニーズに応えられるよう独自の設備を使ってリーズナブルで高品質な製品を製造している会社だ。他にも、再生可能エネルギーへの取り組みとして敷地内に設置してある風車を使い、災害発生時には地域住民の避難場所として開放し地球にやさしく安定した発電で安心安全な防災機能も提供しているという。

今回の研修は、中間テスト直後に実施された。普段生活していると、目の前のことに追われ、視界が狭まることもある。そんな中で、研修を通してこれまでになかった新たな発見や見方・考え方に触れることができ、将来のことに新たな視点を与えられた。この経験で得た新たな知見をこれからの探究活動に活かし、さらに視野を広げて将来の自分につなげていきたいと思う。